

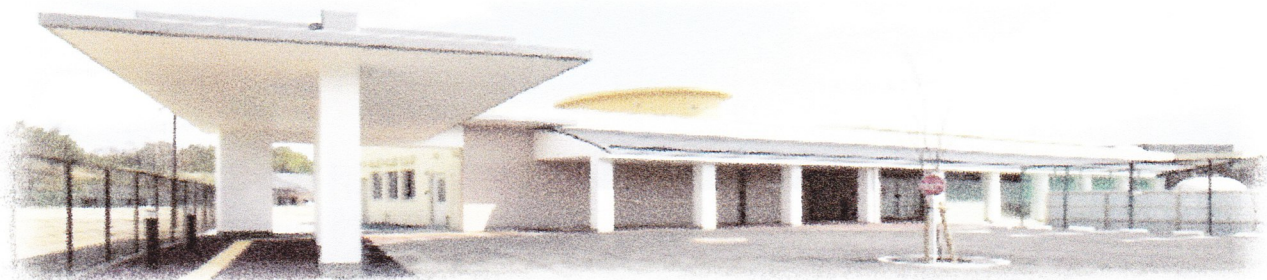
あそかビハーラクリニック便り

む ゆ う じ ゅ

無憂樹

第 2 号

2013. 1. 15 発行 あそか第2診療所
〒610-0116 京都府城陽市奈島下ノ畔3-3
TEL 0774-54-0120 FAX 0774-54-0121
E-mail:sinryo@asokavihara.jp



「無憂樹」（むゆうじゅ）の由来

ビハーラ便りのタイトル「無憂樹」。この言葉はあまり聞きなれないと思います。そして「あそかビハーラクリニック」の「あそか」という言葉。これもどういう意味か分かりにくいと思います。実は、「無憂樹」と「あそか」は同じ意味をもつ言葉なのです。

といいますのも、「あそか」というのは、もともと古代インドのサンスクリット語の「asoka」という単語をそのまま平仮名表記したもので、それを漢字に訳したのが「無憂樹」という言葉です。

「無憂樹」は、お釈迦様のお母様である摩耶夫人が、この樹に咲く花があまりに美しく、手をさしのべたときにお釈迦様が誕生されたといわれています。お釈迦様が悟り開かれたときの「菩提樹」、お釈迦様が入滅されたときの「沙羅双樹」と並んで、「無憂樹」は、お釈迦様の誕生にちなんだ樹木として「仏教三大聖樹」のひとつに数えられています。

ビハーラ便りの「無憂樹」の題字は、以前に入院されていた患者さんが亡くなる一ヶ月前に毛筆で書かれた書体をそのまま用いさせていただきました。

その患者さんが書いてくださった「無憂樹」。クリニックでは柵の木に「刻字」をして、いまもビハーラホールの入り口に掲げられています。



↑ 刻字された「無憂樹」の下でスタッフ一同と

至徳風靜 衆禍波轉

～あそかでの日々～

「もっと早く、ホスピスに入院しておけばよかった…」患者さんやご家族からよく聞く言葉のひとつです。その言葉に続くのが、「ホスピスというと、暗いイメージがあつて…」という誤解の言葉です。何かしらホスピスは「死を待つだけの場所」というイメージがあつて、入院をためらう方が居られるのも事実です。本来、ホスピスは《その人らしく生き抜く場所》なのですが、ホスピスの日常の風景はあまり知られていません。今回は、一般の病院にはない、ぬくもりのある「あそか」の日常の一端を、ご紹介したいと思います。

あそかベーカリー



あそかでは定期的にベーカリーを開いています。これはスタッフだけでなく、患者さんやご家族の皆さまにもお手伝いをいただいて、手作りパンを焼く企画です。焼きたてのパンの香りは格別ですが、みんな

でわいわいと作るからこそ、美味しさは一段と増します。

患者さんは食事を提供される側というのが一般的ですが、あそかでは患者さんもキッチンに立っていただき、作る側に立っていただいています。そう、家にいるときと変わらない生活が、あそかにはあります。



あそか菜園

あそかには、猫の額ほどですが家庭菜園コーナーがあります。トマトやキュウリ、イチゴやオクラ、サツマイモにジャガイモと、季節のお野菜などを栽培しています。もちろん患者さんやご家族にもお手伝いしていただいています。大地を踏みしめ、土の香りがするクリニック。ここにも日常の生活があふれています。



家族室・面会



病院での付き添いは、ご家族にとっては疲労がたまるもの。あそかには落ち着いた雰囲気家族室が二部屋用意されています。ご家族全員で泊まっていた

その人らしさを支えるために

緩和ケア 医師 佐藤真彬



人は命を終えていくことが定められています。そして誰も苦しくない穏やかな最期を望まれることが多いと思います。しかし、安らかな最期を迎えられる方がいらっしゃるのも事実ですが、ほとんどの方は痛みと苦しみに耐えながら最期を迎えられるのが現実です。それは統計的にも老衰が少なく、癌・肺炎が上位を占めることから確かだと思われ

でも仮に医療技術をうまくつかって最期の苦しみを和らげることができるとしたらどうでしょうか？お薬で「痛み」や「苦しみ」をとりのぞくのです。そしてそこに少しの医療者のぬくもりと、ご家族と過ごせる環境が加わったらどうでしょう。それによって、その人らしく穏やかに過ごしていただく日々を取り戻すことができます。そんな医療があれば悪くない気がします。ただ実際、あるんです。こういう医療。それがホスピスなんです。私たち、あそかビハーラクリニックでは、痛み、苦しみのない日々を実現すべく、今日も日々、頑張っています。

社会の風 ボランティアさん

くことができますし、ときにはお孫さんの勉強部屋になっていたり…。誰かがそばに居てくれるだけで安心ですし、ご家族にとっても大切な人のそばで貴重な時間を過ごすことができます。また面会時間にも制限はありません。いつでも面会に来ていただくことができますし、ペットの面会も可能です。患者さんの愛犬とお医者さんがたわむれる。そんな穏やかな風景が、あそかにはあります。



病院というのはとかく閉鎖された空間です。患者さんはその閉鎖された空間のなかで、社会と関わることが極端に少なくなってしまいます。そんな閉ざされた空間にく社会の風を運んでくれるのが、ボランティアさんの存在です。お部屋にお花を飾ってくれたり、ティーサービスをしてくれたり。日常のほんとはにさりげないお手伝いをさせていただきます。

また専門のアロママッサージのボランティアさんも活動しています(500円)。患者さんだけではなくご家族の方にもマッサージしますので、付き添いで疲れたお身体を、アロマでリラックスしてみたいか



たこ焼きパーティー



あそかには調理器具が完備したファミリーキッチン(談話室)があり、患者さん・ご家族が自由にご利用いただくこと

ができます。写真はたこ焼きパーティーの様子ですが、これまでも、お好み焼きをしたり、すき焼きパーティーなどがありました。なかにはビアパーティーを開かれたご家族も…。あそかでは付き添いの方の食事(要予約・有料)もご用意いたしますので、家庭的な雰囲気談話室でご家族そろって食事をお召し上がりいただけます。(右の写真は患者さんが作られました)



ビハーラホール

キリスト教系の病院は全国にも数多くありますが、あそかは日本でも数少ない「仏教ホスピス・ビハーラ病棟」です。院内にはビハーラホールがあり、僧侶による勤行と法話があります。どなたでも自由にお参りすることができます。こころ落ち着く空間が、そこにはあります。



入院までの流れ

電話相談

緩和ケア外来予約

※まずはお電話ください。外来受診に必要な書類のご説明や、外来受診日を決定します。

緩和ケア外来

※患者さんご本人が受診できない場合は、ご家族のみの受診でもかまいません。(相談料は自費5250円)

入院判定

※外来受診後、入院の適応かどうか判断し、ご連絡いたします。

入院

※入院後は、ご家族と共に院内のスタッフが精いっぱいサポートさせていただきます。

がんでお悩みの方や、入院のご相談、またはご不明な点など お気軽にお電話ください
あそか第2診療所(ビハーラクリニック)

TEL 0774-54-0120 担当: 奥田(メディカルソーシャルワーカー) まで

病棟のご案内

病室 19床

2床部屋	5部屋	10床	※備品使用料650円/1日
個室	洋室	6床	※12000円/1日
	和室	2床	※15000円/1日
	特室	1床	※18000円/1日

家族室 和室2部屋 ご家族様がお泊まりいただけます

談話室 (ファミリーキッチン)

調理器具が揃っており、自由にご利用いただけます。
ご家族様の付き添い食も提供いたします (要予約)

浴室 (特殊浴室・機械浴室・一般浴室)

付き添いの方もご入浴できます

スタッフ

緩和ケア医	常勤 2名	非常勤 2名
看護師	10数名	
薬剤師	1名	
管理栄養士	1名	
ビハラー僧	3名	
事務	3名	
ボランティア	約10名	

見学をご希望の方は、どのような施設か一度見てください。おきたいという方は、事前に予約が必要となりますので、まずクリニックまでお電話ください。また各種研修も受け入れていきますので、ホームページをご確認の上、お申し込みください。

ボランティアさんの募集

あそかの一員として活動していただけるボランティアさんを募集しています。活動の内容は、ティーサービス・ガーデニング・生花の手入れ・朗読・アロマセラピーなどがあります。院内で活動していただくボランティアさんは、ボランティア研修を受講していただく必要があります。ホームページをご覧ください。クリニックまで直接お電話ください。

交通アクセス

お車の場合

- ①京都から：国道1号線より
国道24号線 (京都駅から約1時間)
- ②大阪から：国道307号線を通して
山城大橋を越え、国道24号線を北
- ③奈良から：国道24号線を北へ

電車の場合

- ①JR 山城青谷駅下車、徒歩15分
- ②近鉄 新田辺駅より、タクシーで15分
- ③JR 京田辺駅より、タクシーで15分
- ④JR 城陽駅より、タクシーで15分

編集後記

平成25年、今年も新年を迎えました。毎年のように「今年こそは！」と目標を立てるのですが、日々の過ぎ去るはやさに驚き、年末を迎える頃には、今年も目標はすっかり忘れ・・・。

考えて見れば、過ぎ去った日々は二度と返ってこないですし、未来は未だ来ていません。当たり前のことですが、「今」しか私たちにはないのですね。

そんな「今」を後悔しないために、第2号ではあそかでの日常の様子を紹介させていただきました。

ホスピスは最期に入院するところ。ホスピスは生きることをあきらめた人が入院するところ。そんな言葉を、患者さんやご家族から、ときには医療者からも聞くことがあります。

その人らしさを大切に、その人にしかない「今」を生き抜いていただける処。それがホスピスです。

さて、今年こそは！ (花)